

うるぎトライアルRUN完走者の大会評価
—大会満足度と自由記述のテキスト分析による検討—

大 勝 志津穂

愛知東邦大学

うるぎトライアルRUN完走者の大会評価 —大会満足度と自由記述のテキスト分析による検討—

大 勝 志津穂*

目次

1. はじめに
2. 売木村とうるぎトライアルRUN
3. 調査方法
4. 分析方法
5. 調査結果
 - (1) 個人的属性
 - (2) 大会満足度
 - (3) 次年度大会への参加意向
 - (4) 次年度大会参加意向と大会満足度
 - (5) 大会の感想及び意見（自由記述）
6. まとめ

1. はじめに

2007年の東京マラソンをきっかけに、市民マラソンブームが起こってきた。公認のフルマラソン大会は年々増加しており、ハーフマラソンの大会や非公認の大会を含めると全国各地で年間2000以上の大会が開催されている。土曜日や日曜日、祝日に大会が開催されることを考えると、日程によっては、多くの大会が同日に開催されることが容易に想像できる。原田（2016）はマラソン大会について、人気の高い大会には応募者が集まるものの、参加者集めに苦勞する大会もあり、供給が需要を上回る「デフレ現象」が起き始めていると述べている。このような状況では、大会を継続させるために他の大会との差別化を図り、参加者の満足度を高めながらリピート率を上げることが求められる。

そこで本研究では、「日本一過酷」と銘打った長野県売木村で開催された「第1回うるぎトライアルRUN」を取り上げる。売木村では、これまでもマラソン大会が開催されてきた。それらの経験を踏まえて2016年新たに「日本一過酷」と銘打ってこの大会が開催された。「日本一」と称するマラソン大会は少なく、大会主催者が他の大会との差別化、独自性を生かした大会として取り組んだ意気込みがうかがえる。本研究では、この刷新された大会に参加した人の大会満足度と自由記述による感想から、この大会の継続の可能性を探ることを目的とした。

* 愛知東邦大学経営学部

2. 売木村とうるぎトライアルRUN

長野県売木村は、信州最南端の村のひとつである。東と北は阿南町、西は羽根村・平谷村、南は愛知県豊根村に接し、愛知県最高峰の茶臼山北麓に位置する（図1）。売木村は、1000m～1300mの山々と、売木峠、平谷峠、新野峠など4つの峠に囲まれた小さな盆地で構成され、豊かな自然に囲まれた村である。この村の特徴を生かして、農業体験、スポーツトレーニング・合宿、サイクリング、キャンプなど様々な山里体験が実施されている。



図1. 売木村の位置

うるぎトライアルRUNは、売木村地域おこし協力隊の一員であった重見高好氏が始めたマラソン大会である。重見氏は、白山・白川郷100kmウルトラマラソン優勝（2014）、第8回神宮外苑24時間チャレンジ・ウルトラマラソン優勝（2014）、台湾・南横ウルトラマラソン（120kmの部）優勝（2016）、IAU 24時間走アジア・オセアニア選手権大会準優勝（2016）など多くのウルトラマラソンの大会で好成績を残す国内屈指の現役ウルトラマラソン選手である。ウルトラマラソンの選手である重見氏のイメージと、売木村の準高地な地形、さらにハイキング道や林道を走るトレイルランの要素を組み込んだコース、これらの要素から「日本一過酷」と銘打ったマラソン大会が開催されることになった。

第1回うるぎトライアルRUNの概要を表1に示した。開催日は、2016年10月9日（日）である。種目は、フルマラソン、ハーフマラソン、ノルディックウォーキングの3種類であり、参加費は、フルマラソンが5000円、ハーフマラソンが3500円、ノルディックウォーキングが2000円である。また、前日には、参加者と重見氏、村民との交流会が行われている。参加募集人数は、フルマラソンの部とハーフマラソンの部を合わせて200名、ノルディックウォーキングの部15名である。当日の参加人数は、フルマラソンの部105名、ハーフマラソンの部104名、ノルディックウォーキングの部13名であった。

表1. 第1回うるぎトライアルRUN概要

種目	参加費	定員	制限時間	参加資格	参加賞	当日参加者数
フルマラソン(42.195km)	5000円	合計	7.5時間	高校生以上	ランニンググッズ・特産品*抽選	105名
ハーフマラソン(20.0975km)	3500円	200名	5.0時間			104名
ノルディックウォーキング(6km)	2000円	15名	2時間			13名

3. 調査方法

調査は、大会当日、完走者に対して、直接配布回収による質問紙調査を実施した。調査の趣旨を説明し、承諾を得られた完走者のみに調査を依頼した。配布回収数は83枚、有効回答数は82枚（98.8%）であった。調査項目は、個人的属性、大会満足度、次年度大会への参加意向、大会の感想と要望（自由記述）である。

4. 分析方法

大会満足度の9項目については、「非常に満足」から「非常に不満足」の5段階リッカートタイプ方式により回答を得た。各項目の回答傾向を明らかにしたのち、「非常に満足」に5点、「まあ満足」に4点、「普通」に3点、「やや不満足」に2点、「非常に不満足」に1点の点数を与え数値化を行い、平均値を算出した。その後、男女別、年齢についてはt検定、マラソン大会経験回数については一元配置分散分析によって平均値の比較を行った。年齢は、平均年齢を基準に「45歳以下」と「46歳以上」の2つに分けた。マラソン大会経験回数は、「初めて」「2-4回」「5-9回」「10回以上」の4つに分類した。

大会の感想と要望の自由記述については、KH Coder^{*1}を用いたテキスト分析を行った。テキストデータに出現する語のうち特定の回数以上の出現回数を持つ語を用いて、共起ネットワーク^{*2}を作成し、自由記述の全体像を明らかにした。

5. 調査結果

（1）個人的属性

分析対象者の個人的属性を表2に示した。性別では、「男性」が58.5%と6割近くを占めた。年代では、「40歳代」が41.5%と最も多く、次いで「20・30歳代」が25.6%となり、平均年齢は46.1歳であった。参加部門では、「フルマラソン」が59.8%と6割となった。マラソン大会参加経験回数では、「10回以上」が最も多く58.5%と6割近くを占め、「初めて」は7.3%と1割にも満たなかった。平均参加回数は20.4回となり、これまでに多くの大会に参加した人が参加していることがうかがえた。マラソン実施年数では、「5年未満」が最も多く37.8%となり、平均年数は7.7年となった。マラソン参加経験回数と実施年数をみると、おおそ年間て3大会ほど参加していることが推測された。

表 2. 個人的属性 (n=82)

	n (%)		n (%)
性別		マラソン大会参加経験回数	
男性	48 (58.5)	初めて	6 (7.3)
女性	34 (41.5)	2-4回	10 (12.2)
		5-9回	13 (15.9)
年代		10回以上	48 (58.5)
20・30歳代	21 (25.6)	N.A.	5 (6.1)
40歳代	34 (41.5)	平均参加回数	20.4回(±29.40)
50歳代	19 (23.2)		
60歳以上	8 (9.8)	マラソン実施年数	
平均年齢	46.1歳(±10.46)	5年未満	31 (37.8)
		5年以上10年未満	28 (34.1)
参加部門		10年以上	21 (25.6)
フルマラソン	49 (59.8)	N.A.	2 (2.4)
ハーフマラソン	28 (34.1)	平均年数	7.7年(±7.68)
ノルディックウォーキング	3 (3.7)		
N.A.	2 (2.4)		

(2) 大会満足度

大会の内容に関する9項目について、それぞれの満足度を明らかにした(図2)。「トイレの設置数」以外の項目では、「非常に不満足」と回答した人は全くいなかった。満足(「非常に満足」+「まあ満足」)の割合が高かった項目は、「沿道の声援」「スタッフの対応」「コース」であり、「沿道の声援」92.7%、「スタッフの対応」90.3%、「コース」88.9%と約9割の人が満足していた。不満足(「非常に不満足」+「やや不満足」)の割合は、全ての項目において1割にも満たなかったが、特に不満足の高かった項目は、「エイドステーション」「売店」と「トイレの設置数」であった。「エイドステーション」8.6%、「売店」6.5%、「トイレの設置数」6.3%であった。

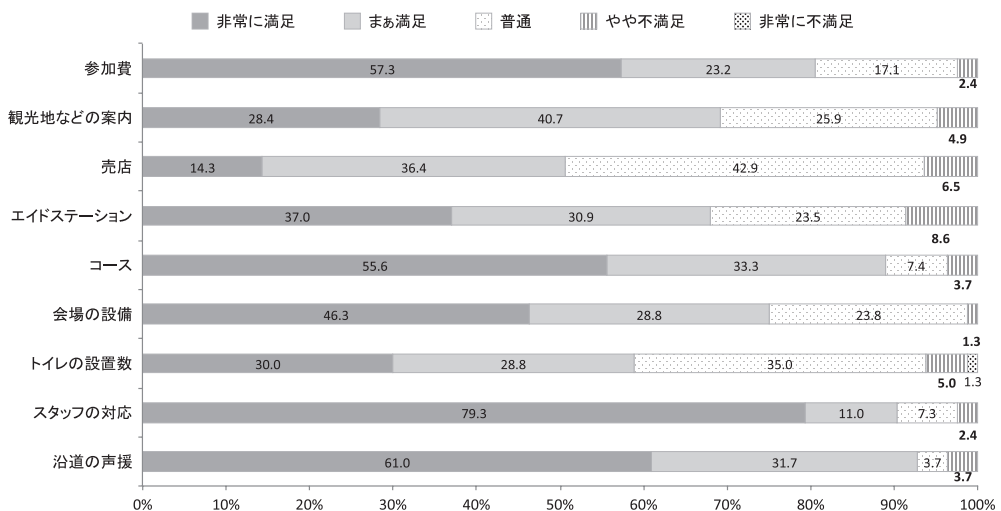


図 2. 大会に対する満足度

次に、数値化した大会満足度の平均値を算出した（表3）。まず、全体をみると9項目全てが3.0以上を示すとともに、5項目は4.0以上を示し、参加者の満足度の高さがうかがえた。最も高い値を示した項目は「スタッフの対応（4.67）」であり、次いで「沿道の声援（4.50）」となった。すなわち、大会運営を支えるスタッフや沿道に出て声援を送る村の人など、大会運営の裏方の人々に対する評価が高いことが明らかとなった。「コース（4.41）」や「参加費（4.35）」も高い値となった。この大会の目玉は、何と云っても「日本一過酷」と称するコースにある。平地だけでなくハイキング道や林道を走るコースはトレイルランの要素を多分に含み、売木村の地形を生かしたコースの累積標高数は、フルマラソンでは約1700m、ハーフマラソンでは約600mにもなる。この一番の目玉であるコースに対しての評価が高かったことは、他のマラソン大会との差別化という点において評価できる。また、「参加費」については、多くのフルマラソン大会が10000円近い参加費をとるものの、この大会では5000円と低料金に設定されており、それが高評価に繋がったと推測される。

一方、低い値を示した項目は、「売店（3.58）」「トイレの設置数（3.81）」であった。売木村は、人口約600人の小さな村で、コンビニエンスストアはない。小さな商店が2、3店あるだけで、24時間営業はしていない。このような環境のため「売店」に対する評価が低くなったと思われる。「トイレの設置数」についても、村の人の協力によって開催されている大会であり、トイレも村民の住宅を借りている場合もある。このような点で、他の大会と比べてトイレが十分に設置できていたとは言えず、評価が低くなったと考えられる。

表3. 大会満足度（全体及び男女別）

	全体			男性			女性			t値
	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	mean	S.D.		
沿道の声援	82	4.50	0.74	48	4.50	.715	34	4.50	.788	0.00
スタッフの対応	82	4.67	0.72	48	4.56	.823	34	4.82	.521	-1.76
トイレの設置数	80	3.81	0.97	48	3.79	1.031	32	3.84	.884	-0.23
会場の設備	80	4.20	0.85	46	4.22	.867	34	4.18	.834	0.21
コース	81	4.41	0.79	48	4.35	.838	33	4.48	.712	-0.73
エイドステーション	81	3.96	0.98	48	3.92	.986	33	4.03	.984	-0.51
売店	77	3.58	0.82	47	3.55	.880	30	3.63	.718	-0.42
観光地などの案内	81	3.93	0.86	48	3.79	.849	33	4.12	.857	-1.71
参加費	82	4.35	0.85	48	4.25	.911	34	4.50	.749	-1.32

続いて、男女別と年齢別、大会参加経験回数によって満足度の平均値の差を比較した。男女別では9項目全てにおいて有意な差は認められず、男女によって満足度に違いがないことが明らかとなった（表3）。年齢別では、「会場の設備」と「売店」の項目において有意な差が認められた（表4）。どちらも「46歳以上」が高い値を示した。「会場の設備」では、「46歳以上」が4.48、「45歳以下」が3.89となり、「46歳以上」の満足度がかなり高いことが明らかとなった。大会参加経験回数による比較では、「スタッフの対応」において有意な差がみられた（表5）。「5-9回」では全員が5点満点をつけ、最も高い値を示した。最小有意差検定では、「5-9回」と「初

めて、「5-9回」と「2-4回」の間に有意な差があることが明らかとなり、参加経験の多い人ほど満足度が高いことが明らかとなった。大会参加経験が多いほど、他の大会との比較が可能となる。その意味においても、参加経験回数の多い人ほど満足度が高かったことは、この大会のスタッフの対応の良さが評価できるということになるであろう。

表4. 年齢別大会満足度

	45歳以下			46歳以上			t値
	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	
沿道の声援	38	4.45	.760	44	4.55	.730	-.595
スタッフの対応	38	4.50	.893	44	4.82	.495	-1.953
トイレの設置数	37	3.59	1.013	43	4.00	.900	-1.896
会場の設備	38	3.89	.894	42	4.48	.707	-3.24**
コース	38	4.24	.852	43	4.56	.700	-1.862
エイドステーション	37	3.78	1.084	44	4.11	.868	-1.492
売店	36	3.36	.833	41	3.78	.759	-2.31*
観光地などの案内	38	3.76	.943	43	4.07	.768	-1.592
参加費	38	4.21	.905	44	4.48	.792	-1.423

*p<.05、**p<.01

表5. マラソン大会参加経験回数による大会満足度

	初めて(a)			2-4回(b)			5-9回(c)			10回以上(d)			F値	LSD
	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.		
沿道の声援	6	4.50	1.225	10	4.10	.994	13	4.85	.376	48	4.58	.539	2.473	
スタッフの対応	6	4.17	.983	10	4.40	.843	13	5.00	0.000	48	4.79	.582	3.70*	c>a**, c>b*
トイレの設置数	6	4.17	.983	10	4.10	.994	13	3.69	.947	47	3.87	.875	.571	
会場の設備	6	4.50	.837	10	4.10	.876	13	4.23	.832	46	4.28	.834	.299	
コース	6	4.17	.753	10	4.20	.919	13	4.77	.599	47	4.38	.795	1.373	
エイドステーション	6	3.67	.816	10	4.00	1.054	13	4.38	.768	47	3.96	1.021	.935	
売店	6	3.17	.753	9	3.56	1.014	12	3.83	.718	45	3.67	.798	.957	
観光地などの案内	6	3.50	.548	10	3.50	1.080	13	4.23	.725	47	4.06	.791	2.461	
参加費	6	3.83	.753	10	4.20	.919	13	4.62	.768	48	4.46	.771	1.657	

*p<.05、**p<.01

(3) 次年度大会への参加意向

次年度大会への参加意向を聞いた。その結果、参加する（「絶対参加する」+「参加する」+「多分参加する」）と回答した人は、90.1%となり、リピート率が高くなる可能性がうかがえた（図3）。

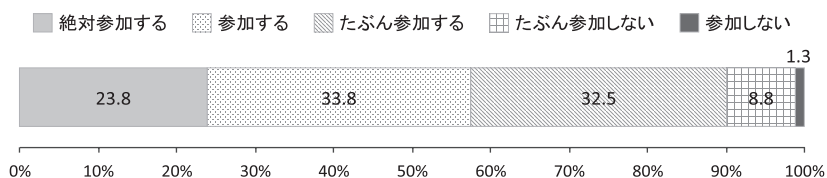


図3. 次年度大会への参加意向

(4) 次年度大会参加意向と大会満足度

次年度大会への参加意向によって大会満足度を比較した(表6)。その結果、4項目において有意な差がみられた。4項目とも「絶対参加する」と回答した人の平均値が最も高くなっており、「参加しない*1」が最も低くなっている。特に「エイドステーション」の項目は、「参加しない」と回答した人の値は3.0を下回っており、満足度がかなり低いことがわかる。

表6. 次年度大会の参加意向による大会満足度

	絶対参加する(a)			参加する(b)			たぶん参加する(c)			参加しない(d)			F値	LSD
	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.	n	mean	S.D.		
沿道の声援	19	4.58	0.51	27	4.63	0.49	26	4.46	0.99	8	3.88	0.83	2.34	
スタッフの対応	19	5.00	0.00	27	4.67	0.73	26	4.73	0.60	8	3.63	1.06	8.91***	a>d***, b>d***, c>d***
トイレの設置数	18	4.00	1.14	26	3.92	0.80	26	3.62	1.10	8	3.63	0.74	0.77	
会場の設備	18	4.61	0.61	27	4.41	0.75	25	3.84	0.94	8	3.75	0.89	4.69**	a>c**, a>d*, b>c*, b>d*
コース	19	4.89	0.32	27	4.56	0.58	26	4.35	0.56	8	3.13	1.25	15.90***	a>c**, a>d***, b>d***, c>d***
エイドステーション	19	4.42	0.69	26	3.88	0.95	26	4.00	0.89	8	2.75	1.04	6.76***	a>b*, a>d***, b>d**, c>d***
売店	18	4.00	0.84	25	3.52	0.77	26	3.42	0.76	8	3.38	0.92	2.22	
観光地などの案内	19	4.16	0.76	27	3.96	0.81	26	3.88	0.91	8	3.25	0.89	2.24	
参加費	19	4.63	0.68	27	4.44	0.80	26	4.15	0.97	8	3.88	0.83	2.16	

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

(5) 大会の感想及び意見

65名が書いた自由記述の内容について分析した。総抽出語は1,403語であった。最頻出語は「コース」であり、次いで「楽しい」「する」となった(表7)。

表7. 自由記述における頻出語(上位30語)

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
コース	27	大会	8	わかる	5	分かる	4
楽しい	20	できる	8	すごい	5	苦しい	4
する	19	応援	7	よい	5	いる	4
とても	17	うれしい	7	スタッフ	4	なる	4
ありがとう	15	案内	6	声援	4	村	4
きつい	12	完走	6	来年	4	づらい	4
ある	11	楽しむ	6	売木村	4	にくい	4
参加	10	もう少し	6	思う	4	よい	4
エイド	9	皆様	5				

次に、共起ネットワークにより出現パターンの似通った語を抽出し、強く結びついている語を分類した(図4)。出現数の多い語ほど大きな円で描かれ、強い共起関係ほど太い線で描写される。出現数の多い語を中心にみると、ひとつの群は「コース」「楽しい」「とても」「きつい」などで構成されていた。「とてもきついコースだったけど、楽しかった」「楽しいコースでした」など、この大会の目玉であるコースに対しての高評価に対する意見であった。ふたつめの群は「する」「もう少し」「参加」「案内」などで構成されていた。「わかりやすい案内がもう少し欲しかった」「案内をもう少し丁寧にお願いします」など、案内に対する要望がみられた。3つめの群は「ありがとう」「楽しむ」「来年」「売木村」「皆様」などで構成されていた。「売木村の皆様あり

がとう」「来年も来たいです。ありがとうございました」など、運営スタッフに対する感謝の言葉が述べられていた。

共起関係の強さでみると、「日本一」と「過酷」、「大変」と「マラソン」、「スタッフ」と「沿道」、「沿道」と「声援」が強い関係にあることがわかり、4つめの群として構成されていた。これらは、「日本一過酷なマラソン」と銘打った大会を象徴した語であり、参加者が「日本一」「過酷」の言葉に反応していたことがわかる。また、大会開催の主要人物である「重見」氏の言葉もみられ、重見氏とレース、過酷との関連がこの大会を象徴しているとも言えた。「沿道」「声援」「スタッフ」については、「沿道の声援がうれしかったです」「沿道の声援に勇気がもらえました」「沿道の応援、スタッフの方々がすごくあたたかくていい大会でした」など多くの声援があったこと、声援によって後押しされたことへの感謝が述べられていた。5つめの群は、「エイド」「応援」「ある」などで構成されていた。「エイド」については、「エイドはどれもおいしかったです」「エイドで元気をもらえました」という高評価の意見と「エイドを増やしてください」「エイドの数が少ないように思います」などエイドステーションをもう少し増やして欲しいという要望の2つの内容がみられた。

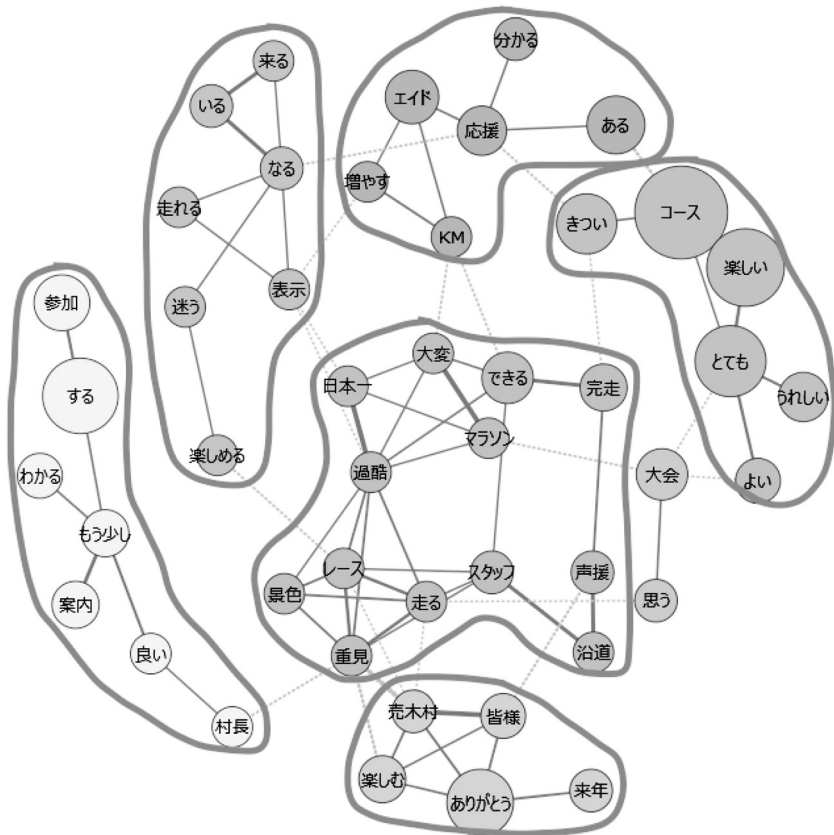


図4. 自由記述の共起ネットワーク分析 (サブグラフ検出^{*)})

6. まとめ

本研究では、長野県売木村で開催された「第1回うぎトライアルRUN」の完走者を対象に、大会満足度と自由記述のテキスト分析により、完走者の大会に対する評価を明らかにした。結果は以下の通りである。

- 1) 大会満足度では、「沿道の声援」「スタッフの対応」など運営側のスタッフに対する評価と、この大会の目玉である「コース」に対する評価が高かった。一方、「トイレの設置数」については、唯一「非常に不満足」と回答した人が見られるなど、満足度が低かった。
- 2) 大会満足度の平均値は、9項目すべてが3.0以上で、そのうち5項目が4.0以上を示し、全体的に高い値となった。
- 3) 大会満足度の男女による比較では、有意な差は認められなかった。
- 4) 大会満足度の年齢による比較では、「会場の設置」「売店」の項目において、「45歳以下」より「46歳以上」が高い値を示し、有意な差が認められた。
- 5) 大会満足度のマラソン大会経験回数による比較では、「スタッフの対応」において、参加経験回数の多い人ほど高い値を示し、特に「初めて」と「5-9回」、「2-4回」と「5-9回」において有意な差が認められた。
- 6) 次年度大会への参加意向による比較では、「スタッフの対応」「会場の設備」「コース」「エイドステーション」において、参加意向が強い人ほど高い値をしており、有意な差が認められた。
- 7) 自由記述による回答からは、「コース」に関する記述が多く見られ、「きついコースだったけど楽しかった」など、コースに対する高評価がうかがえた。また、スタッフや村人に対する感謝の言葉も多く見られた。一方で、「案内」については、「もう少し案内が欲しかった」「丁寧な案内があると良い」など、改善を要望する意見が見られた。

以上のように、大会満足度については、全体的に高い値を示し、完走者の多くが大会に満足していることが明らかとなった。特に「コース」については、「きついけど楽しい」など主催者側が意図する感想を述べている人が多く、他の大会との差別化を図る要素として重要なポイントになると思われる。一方、満足度も低く、自由記述での意見が多かった「コース案内」については改善が求められるであろう。しかしながら、重見氏は、「海外のトライアルランなどは、自分で地図を見ながら走る大会も多く、それもひとつの楽しみであり、地図を読む力も求められるのが、この種のマラソンの醍醐味である」と言われていた。実際にこの大会ではコースを間違う人が見られ、コース案内の少なさが課題として考えられた。しかし、「この大会はこういう大会だ」という認識のもと楽しんでくれる参加者が増えれば、他の大会と一味違う大会として定着するのではないだろうか。そのためには、参会者に対して「地図を読む力も求められる大会です」などのPRの徹底も求められるだろう。また、今大会ではスマートフォンで地図を見ていた人もおり、中には、「うまく地図が見られなかった」という意見もあったため、電波やネット環境の整備が

課題となるかもしれない。

注)

- *1. KH Coderとは、テキスト型データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアである。アンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまな社会調査を分析することができる。
<http://khc.sourceforge.net/>（2017年9月6日参照）からダウンロードできる。
- *2. 共起ネットワークとは、出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク図のことである。
- *3. サブグラフ検出とは、比較的強くお互いに結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い、その結果を色分けによって示すものである。本研究では、色分けされたグループを線で囲んで示している。
- *4. ここでの「参加しない」は、次年度大会の参加意向で「たぶん参加しない」「参加しない」と回答した人である。

謝辞

本研究のアンケート調査に協力いただきましたうぎトライアルRUN参加者の皆様、快くアンケート調査の実施を許可いただきました村長清水様や重見様、さらに、アンケート調査の実施に協力してくれた大勝演習の2年生、3年生に深く感謝いたします。

参考文献

- 大後茂雄・庄子博人・間野義之（2014）北海道マラソンの参加動機の構造と大会満足度に関する研究～Push-Pullに着目して。ランニング学研究25。pp.1-16.
- 原田宗彦（2016）飽和状態の市民マラソン…大会生き残りの鍵は？
http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20151225-OYT8T50120.html?page_no=1（2017年9月1日参照）
- 樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析。株式会社ナカニシヤ出版。京都。
- 北村尚浩・坂口俊哉（2014）鹿児島リレーマラソン参加者の満足度。生涯スポーツ実践研究年報12。pp.3-7.
- 先森仁・秋吉遼子・山口泰雄（2014）大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意図に与える影響に関する研究：県内・県外参加者に着目して。神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要8（1）。pp.107-113.
- 柴田恵里香（2014）スポーツツーリストのスポーツイベント再参加要因と開催地への愛着の関係性。SSFスポーツ政策研究第3巻1号。pp.167-176.
- 山口泰雄（2005）リピーターの継続要因を探る。生涯スポーツイベントの社会学ースポーツによるまちおこし。有限会社創文企画。pp.207-216.

受理日 平成29年9月20日